

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年2月10日(2005.2.10)

【公表番号】特表2000-516272(P2000-516272A)

【公表日】平成12年12月5日(2000.12.5)

【出願番号】特願平10-502226

【国際特許分類第7版】

C 0 8 F 8/00

C 0 8 J 3/20

C 0 8 J 3/24

【F I】

C 0 8 F 8/00

C 0 8 J 3/20 C E S Z

C 0 8 J 3/24 Z

【手続補正書】

【提出日】平成16年6月10日(2004.6.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手続補正書

平成16年6月10日

特許庁長官 今井 康夫 殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第502226号

PCT/EP97/03097



## 2. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 オランダ国, 6824 ビーエム アンヘム,

フェルペルウェヒ 76

名称 アクゾ ノーベル ナムローゼ フェンノートシャップ

## 3. 代理人

〒105-0003

住所 東京都港区西新橋 2-19-2. 西新橋YSビル3階

電話 03 (5401) 2521

氏名 (8554) 弁理士 松井 光夫



## 4. 補正により増加する請求項の数 なし

## 5. 補正対象書類名 特許法第184条の5第1項の規定による書面

## 6. 補正対象項目名 (1) 特許請求の範囲

## 7. 補正の内容

(1) 特許請求の範囲を別紙の通り補正致します。

#### 特許請求の範囲

1. 分解温度より下の温度で開始剤をポリプロピレン (コ) ポリマーと混合し、混合物を加熱し、開始剤のほとんどはポリマーが溶融する前に分解し、かつ形成された遊離基がポリマーと反応することによる、ポリプロピレン (コ) ポリマーの溶融強度を高める方法において、ポリプロピレン (コ) ポリマーを極性媒体中の開始剤の分散物と接触させ、開始剤粒子の少なくとも 90 重量%が 50  $\mu\text{m}$  より小さく、かつ開始剤粒子の少なくとも 99 重量%が 65  $\mu\text{m}$  より小さいことを特徴とする方法。
2. 開始剤粒子の少なくとも 99 重量%が 50  $\mu\text{m}$  より小さい請求項 1 記載の方法。
3. 開始剤が水中に分散されている請求項 1 または 2 記載の方法。
4. 開始剤が、100℃の温度で1時間以下の半減期を有する請求項 1～3 のいずれか1項記載の方法。
5. 開始剤がパーオキシジカーボネートである請求項 4 記載の方法。
6. パーオキシジカーボネートが、室温で固体の化合物である請求項 5 記載の方法。
7. パーオキシジカーボネートが、ビス (2-エチルヘキシル) パーオキシジカーボネートである請求項 5 記載の方法。
8. 極性媒体が凝固点降下剤を含む請求項 1～7 のいずれか1項記載の方法。
9. 凝固点降下剤が、メタノール、エタノール、プロパノール、エチレングリコール、プロパン-1, 2-ジオールまたはこれらの化合物の2以上の混合物から主として成る請求項 8 記載の方法。
10. 開始剤が分散される極性媒体が、少なくとも1の界面活性物質を含む請求項 1～9 のいずれか1項記載の方法。
11. 1またはそれ以上の界面活性物質が、アニオン性または非イオン性である請求項 10 記載の方法。

12. 開始剤が分散される極性媒体が、少なくとも1の増粘剤を含む請求項1～11のいずれか1項記載の方法。

13. 極性媒体中の開始剤濃度が、33重量%未満である請求項1～12のいずれか1項記載の方法。

14. 開始剤分散物が、担体物質中に組み込まれる請求項1～13のいずれか1項記載の方法。

15. ポリプロピレン (コ) ポリマーが、0.5～50 g/10分 (2.16 kg、230℃にて測定) の範囲のメルトフローインデックス (MFI) を有する請求項1～14のいずれか1項記載の方法。

16. ポリプロピレン (コ) ポリマー100 g当たり0.05～5ミリモルの開始剤を使用する請求項1～15のいずれか1項記載の方法。

17. 開始剤の分解中、酸素を含まない条件が維持される請求項1～16のいずれか1項記載の方法。

18. ポリプロピレン (コ) ポリマーの変性が、押出機中で行われる請求項1～17のいずれか1項記載の方法。

19. なお存在する何らかの遊離基を、ならびに、未反応の開始剤から後で形成され得る何らかの遊離基を無害にするために、得られた変性ポリプロピレンに安定剤を添加する請求項1～18のいずれか1項記載の方法。

20. ポリプロピレン (コ) ポリマーの変性が、発泡した物質を作るためにまた使用される装置中で行われる請求項1～19のいずれか1項記載の方法。

21. 請求項1～20のいずれか1項記載のポリプロピレン (コ) ポリマーの溶融強度を高める工程を含む、ポリプロピレン (コ) ポリマーに基づく発泡した物質を製造する方法。